

令和2年度(2020年度)の曾根沼におけるオオクチバスの抑制状況と 在来魚介類の生息状況

田口貴史・石崎大介・根本守仁

1. 目的

外来魚駆除のモデル水域として選定した曾根沼（滋賀県彦根市）では、2003年度から外来魚駆除を実施しており、近年ではオオクチバス（以下、バス）の減少と在来魚介類（魚類とエビ類）の増加が顕著である。本年度も過年度に引き続き外来魚駆除と在来魚介類の生息状況調査を実施したのでその結果を報告する。

2. 方法

2020年度の曾根沼では、5月中旬から6月にかけてバス仔稚魚のすくい捕り駆除を実施したほか、小型定置網(全長約15m、目合5mm)による在来魚介類およびバス当歳魚の生息状況調査を実施した。定置網での調査は4～9月の毎月中旬に2日間、網を設置して1日1回、計2回取り上げ、捕獲魚種と各々の尾数を記録した。これら調査で得られた捕獲効率（CPUE：1操業あたりの捕獲尾数）を過年度と比較した。

3. 結果

仔稚魚すくいのCPUEは2018年以降の水準から横這い傾向を示した（図1）。小型定置網でのバス当歳魚のCPUE（6～9月）は前年より減少し（図2）、2015年以降の低水準を維持できた。本年の調査では機器の故障のため、ショッカーボートでの駆除を実施できなかったが、これらの結果からバスの生息状況は引き続き低位であると考えられる。一方で小型定置網での在来魚介類のCPUEと確認種数は、高位を維持しており（図3）、在来魚介類にとって良好な状況であると考えられる。

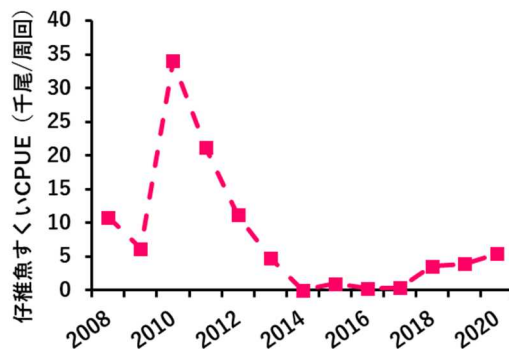


図1 バス仔稚魚（仔稚魚すくい）のCPUEの経年変化

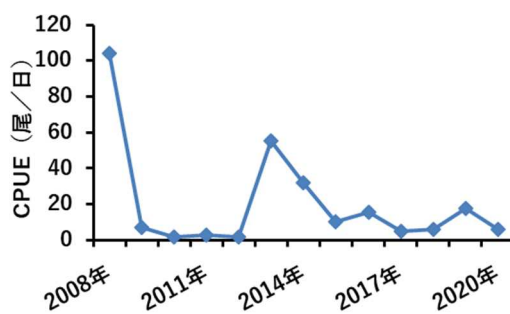


図2 小型定置網でのバス当歳魚のCPUE（6～9月）の経年変化

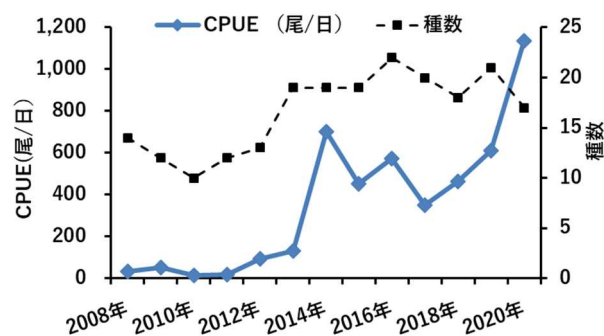


図3 小型定置網での在来魚介類のCPUEと捕獲種数の経年変化（4～9月）

*本報告は水産庁からの委託事業「効果的な外来魚抑制管理技術開発事業」の成果の一部である。